

全国協議会 ニュース

2015年4月1日発行 第274号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp



国際シンポと市民シンポ 5月31日に早大国際会議場

設立25周年記念事業の諸準備が着々と進んでいますが、中心行事となる記念大会「明日のステージへ」の内容も固まってきました。これまで別のイベントとして企画していた「市民シンポジウム」と「国際シンポジウム」を併せて実施することとなりました。また、日本縦断キャラバンも4月24日（金）のスタートまで間近となり、赤十字血液センターへのメッセージや、地域活動に取り組むボランティア同士の交流などによって、盛り上がることでしょう。

題)は全国協議会が準備中ですが、キャラバンの計画を進めるに従い、加盟団体から「行政宛ての文書もぜひ準備して」という要望が相次いでいますので、そのアピール文も用意します。内容的には、血液センター宛てのものが「今後のドナー募集・受付業務へのさらなるご協力」ですが、行政宛てには「ドナー助成制度の導入・拡充のお願い」といったものになる予定です。

ドナー助成制度は既報(第273号)のとおり、埼玉県で全市町村に導入され、これを含め全国で96自治体に及んでいますが、今後、全国的に拡大していくことが予想されます。

映像制作コンペに応募25点 12作品をYouTubeに公開中

設立25周年記念事業「若年層ドナー登録拡大 映像制作コンペティション」のノミネート作品が決まりました。若い世代にドナー登録を考える機会になる作品を募集し25点の応募があり、そのうち12点がノミネートされました。4月30日までの期間YouTubeで作品が見いただけます。皆さんが見た回数で最多再生回数賞が決まります！詳しくは全国協議会ホームページをご覧ください。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髓バンク NOW

《財団マンスリー JMDP(3月13日発行)より抜粋》

■日本骨髓バンクの現状(2015年2月末現在)

	1月	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,377	1,909	450,193	632,924
患者登録者数	257	241	2,717	44,225
移植例数	103	114	—	17,958

■2月の区別ドナー登録者数
献血ルーム/674人、献血併行型集団登録会/1,188人、集団登録会/8人、その他/39人
注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

■2月の年齢別ドナー登録者数(現在数)
10代 2,342人/20代 71,077人/30代 145,791人/40代 182,393人/50代 48,590人

■2月の20歳未満の登録者 149人

■2月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数: 98件



●記念大会

5月31日(日) 午前10時～午後4時に、東京・新宿の早稲田大学・井深大ホール(国際会議場)が会場となります。主なスケジュールは次のとおりです。

【設立25周年記念大会】

- ・主催者あいさつ
- ・来賓祝辞
- ・ドナー登録啓発映像コンペ表彰・作品上映

【国際シンポジウム「ドナーがつなぐ命のリレー」】座長=長村登紀子氏(東京大学医科学研究所附属病院)

- ・基調講演「造血細胞移植 世界との連携」岡本真一郎氏(慶應義塾大学医学部)
- ・ゲスト 韓国とオーストラリアからのお客様をお呼びしています。

【市民シンポジウム「明日のステージへ」】進行=大谷貴子全国協議会顧問

- ①骨髓移植1例目と骨髓バンク運動=幸道秀樹氏(都立多摩総合医療センター)
- ②ボランティアの声で骨髓バンク発足=渡辺孝一氏(全国協議会第2代運営委員長)
- ③骨髓移植の全国展開=野村正満全国協議会理事長(初代NPO理事長)
- ④新たな挑戦とさい帯血移植=谷口修

- 一 25周年事業実行委員長(全国協議会顧問・虎の門病院)
- ⑤末梢血幹細胞移植導入と解決への諸課題=パネリスト人選中
- ⑥移植成績向上に向けた将来展望=藤藤徹也氏(浜の町病院)
- ⑦これからの造血細胞移植=パネリスト全員でセッション



なお、前日の30日(土)には全国協議会の通常総会・代表者会議が予定されています。会場は西新宿の全労済会館です。

●キャラバン

詳細は前号で紹介したとおりですが、スタート(那覇市を4月24日)から春の連休過ぎまでは九州各地を走りますので、既に九州・沖縄では赤十字血液センター(献血ルーム)はもとより、県や市への訪問を計画して、相手先との折衝を進めています。血液センターへの「アピール文」(仮

都の「認定特定非営利活動法人」認定 寄付者を税制で優遇

全国協議会は、3月13日付で東京都の「認定特定非営利活動法人」としての認定を受けました。これまでは国税庁長官による認定（2010年）でしたが、2012年に特定非営利活動促進法が改正され、法人所在の都道府県が政令指定都市に替わったことから、新たな申請が必要となったため、昨年からは進めていた手続きが無事終了したのです。今後5年間は、引き続き「認定特定非営利活動法人」として活動できることになりました。

特定非営利活動法人(NPO法人)が、形式的に「公益性ある団体であるか」を判定基準としているのに対し、認定NPO法人は税制優遇を適用するために「より客観的な基準において高い公益性をもっている」ことが認定条件となっています。

そのため、全国に4万9873（今年1月末現在）のNPO法人の中には、目的や活動内容などが「あやふや」なところも散見され、厳しい基準をクリア

できた認定NPOは634にしかすぎません。特定非営利活動法人の中のわずか1.27%なのです。骨髄バンクボランティア団体では、あいち骨髄バンクを支援する会が認定となっています。

全国協議会は、2000年5月に東京都のNPO法人格を取得しましたが、2010年4月に国税庁長官の認定NPOとなりました。

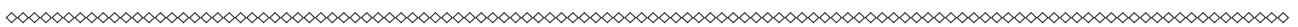
認定NPOの最大メリットは、寄付をした方々（個人や企業・団体）が税

制上の寄付金控除を受けられることです。これまでの「全国協議会ニュース」の下段にその旨を告知してきましたが、寄付者にそうした優遇策があることで、大半の運営経費を善意の寄付金に依拠している私たちには、大きな助けとなっているのです。

国税庁長官の認定期間は5年間（今年4月まで）であるため、法改正に伴う申請先である東京都から「新たな申請となるので、書式を整えるように」との連絡が昨年春にありました。必要書類を整えて申請書を提出したのが昨年10月です。

その後、今年1月には「現地確認」として、都の担当者3人による会計帳簿や閲覧書類の点検などが事務局で行われました。

私たち全国協議会は、税制控除の対象となっている立場を最大限生かし、かつ厳正な運営を心がけながら引き続き所期の目的に向かった業務を遂行してまいります。



造血細胞移植学会でポスター展示 「患者への経済支援」を公表 きち子基金の早期再開もお願い



第37回造血細胞移植学会総会が3月5日（木）から7日（土）まで、神戸国際会議場で「もっと自由な発想で」と題して開かれました。全国協議会では応募演題がポスターに採択され、最終日の7日に掲示・発表を行い、また、PRブースを借りて、地元・神戸骨髄献血の和を広げる会の皆さまに3日間にわたりご協力いただき、若手医療従事者へのマイレージ提供事業の案内や基金のチラシを配布しました。

ポスター発表では「造血細胞移植に

際して患者への経済支援の現状と課題」と題し、全国協議会の活動の柱である患者支援基金についての説明や、現状ではドナーの入院差額室料、骨髄液運搬費が負担となる場合があり、患者さんが移植に臨むに当たって負担が大きく、経済的に厳しい患者さんを助けるための基金が必要であり、現在休止を余儀なくされている佐藤きち子患者支援基金の一日でも早い再開に向けて支援をお願いしました。

今回の学会はコーディネーターのフォローアップの講習会もあり、ブースにも多くの方に立ち寄りいただきました。基金のポスターを掲示していましたが、「へえ〜」という反応もありもっと広くお知らせしていく必要があると改めて感じました。

一方では、「いつも申請させてもらってるから」とご支援もいただきました。佐藤きち子基金の申請受け付け

休止から半年、病院の関係者からも問い合わせをたくさんいただいています。基金再開へのご協力をお願いいたします。

資料配布やハンドブック頒布も

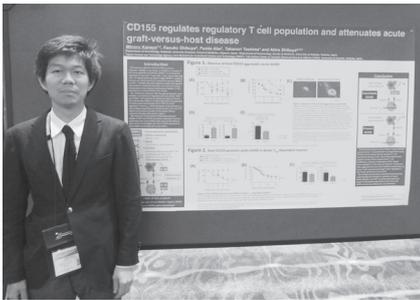
今回の学会では3日にわたりそれぞれ5人程度で活動を行いました。主な活動として「全国協議会ニュース」や志村大輔基金などに関する資料の入ったファイル配りや、クリアファイルやハンドブック『白血病と言われたら』などの頒布や注文受け付けなどを行いました。ブースに来てくださった方々は皆さんが興味を持っておられ、寄付をしてくださる方も多く、とても嬉しく感じました。

3日目にはパネル展示を行い、発表時間が3日目の最後であったにもかかわらず、発表の際には十数人の方に傾聴していただきました。興味を持って質問してくださる方もおられました。他にも多くのセミナーやパネル展示が行われており、大変興味深く拝見し多くのことを学ぶことができました。（神戸骨髄献血の和を広げる会・吉田祐大）

2015 BMT Tandem meeting 学会参加報告

米国学会に2医師参加 若手医療従事者への渡航航空券提供事業

全国協議会が昨秋から開始している「若手医療従事者の海外学術集会渡航航空券提供事業」の2期目の医師が2人、2月11日から15日にかけてアメリカ・サンディエゴで開かれたASBMT/CIBMTR, 2015 BMT Tandem meetingの学会に参加しました。



最新情報をみっちり吸収

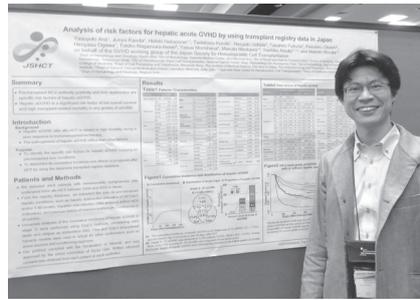
北海道大学血液内科 金谷 穂

今回、「レシピエントのCD155分子が制御性T細胞を介して急性GVHDの抑制に関わる」というGVHDマウスモデルを用いた研究内容でポスター発表をさせていただきました。本学会は5日間にわたって造血幹細胞移植領域の基礎から臨床に至る、あらゆる最新情報をカバーした内容となっており、非常に充実した日々を送ることができました。

私は現在、北海道大学病院血液内科で主に同種造血幹細胞移植の診療を行っています。移植領域はまだ未知の部分が多く、一臨床医として目の前の患者さんのマネジメントに日々頭を悩ませていますが、同時に研究者的な目線で、将来的な移植成績の改善のために自分は何ができるのか、ということを考えることがあります。

大げさな言い方かもしれませんが、本学会の教育講演や一般口演ならびにポスター発表で得られた情報は、いずれも国内（日本語）で得られる情報の数年先に行くような内容ばかりであり、学会会期中は、毎日が驚きの連続でした。

そして同時に、いつか自分が本学会で海外の移植医・移植研究者と同じ目線で議論ができるようになったら素晴らしいな、と感じました。



今後へ大きなヒントを得る

京都大学医学部附属病院

血液・腫瘍内科 新井 康之

今回のミーティングは、欧米を中心に全世界から造血細胞移植に関係する医療者が一堂に集まって、最新の研究成果を交換するものです。

私は、本邦での同種造血細胞移植データベースを用いて、肝臓における急性移植片対宿主病のリスク因子を解析し、発表いたしました。発表を見に来られた海外の先生方から今まで考えが及ばなかったような新しいご意見を複数いただき、今後の研究を進める上で、極めて有意義でありました。

また、移植後エンドキサン投与による移植片対宿主病予防法など、日本でもトピックスとなっている治療法について、欧米における多数症例の検討結果を見聞し、非常に勉強になるとともに、今後の新しい研究テーマに向けた大きなヒントを得ました。さらには、同年代の研究者と親交を深めることができたことも、大いに刺激的でした。

最後になりましたが、今回の学会参加にあたり、全国骨髄バンク推進連絡協議会の方々には大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。本事業を通じてご提供いただいた多くの方々からの善意を、今後の移植治療の発展という形で還元できるように、これからも臨床と研究に邁進する所存です。

●第8回役員選考のための選挙開票結果

第8回役員選考のための選挙の開票を3月15日 全国協議会事務局にて行いましたので、その結果を下記の通り報告します。

2015年3月15日

選挙管理委員長 黒部 光司

有権者（団体）数 33

投票者数 29（投票率88%）

有効投票 28

無効投票 1

最低得票数 10

投票結果【公募理事】

候補者名 得票数

荒井 善正 25 当選

山村 詔一郎 25 当選

※なお、立候補者のなかった役員については、役員選考規程第13条に基づき、役員選考委員会により、役員有資格者が選出されます。

徳島のありがとうサクラ 6年を経てようやく開花

徳島の「ありがとうサクラ」がようやく初めて開花しました。徳島では県



血液センターと認定病院である徳島大学病院の間に挟まれた県立蔵本公園の芝生広場に植樹しましたが、実はこの度、駐車場の拡張工事により公園メイン入り口のすぐそばに移植されたのです。これが、ちょうど良い刺激になったのかもしれない。

あれから6年。なかなか咲いてくれない「桜」に逆の意味で毎年励まされ、今はあの時からどのくらい前へ進めたのかと「ハチスカザクラ」独特の淡いピンク色した花びらに問われている気がします。

少しずつ咲き誇っていく「桜」に負けないよう、その答えをしっかりと毎年報告できればと思います。新しい法律とともにまだまだ大きく育てましょう。（とくしま骨髄バンクを支援する会・池田良一）

ブロックセミナー

九州

日本縦断キャラバン中心に 限られた時間内に密度濃く

九州ブロックセミナーが2月28日(土)に福岡で開催されました。今年は協議会設立25周年という大きな記念事業があり、その一環である日本縦断キャラバンの話し合いが19人の参加者で行われました。

2時間という限られた時間のため、担当の辻理事があらかじめ準備したQ & A方式で進められました。九州地区は県境が入り組んでいるため各県の連絡、協力が大切となることが予測されます。また、時期的にも5月の連休が重なり大変だとは思いますが、鹿児島の大田さんをはじめ、各県の協力体制を密に取りながら進められているため、スムーズに事が運びそうです。



出発県である沖縄でのイベントは、フェリーの出航日に合わせて1日早めたことが功を奏して、県庁での出陣となりました。現在、知事に挨拶を依頼しており、ドナーは血液センターの職員に決定したため、出発式を含め着々と準備が進んでいます。

セミナーに参加してくれた九州各県の代表者が連絡をとりあい、25周年記念を成功させようと取り組んでいます。参加された皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。

東北

自治体のドナー助成制度や 25周年キャラバンの解説も

東北ブロックセミナーが3月7日(土)、8

また、次のイベントに向けて頑張っていく予定です。(鳥取県骨髄バンクを支援する会・加登脇由紀子)

東京 ゴールドジムがフェスタ 全国協議会へ募金贈呈も

「骨髄バンク・東日本大震災チャリティーイベント スクール発表会 フィットネスフェスタ2015」(株式会社THINKフィットネス ゴールドジム事業部)が3月15日(日)、きゅりあん(品川区立総合区民会館)で開催されました。

関東のゴールドジム各店舗から31チームが参加し、子どもから大人まで、バレエ・ダンスなど楽しく披露していました。また、日本ボディビル選手権大会5連覇の鈴木雅選手のパフォーマンスもありました。

発表会の終盤に各店舗から集まった募金の贈呈式があり、全国協議会の村上忠雄副理事長が実行委員長の三井悠嗣さんから受け取り、2008年から継続しているご寄付への感謝および協力を呼びかけました。

日(日)の2日間、福島県の会津若松市において開催されました。5団体(東北4団体と新潟)から25人の参加でした。

1日目は、福島県立医科大学会津医療センター血液内科の准教授・角田三郎先生の悪性リンパ腫についての講演でした。ユーモアあふれた語りで専門的な難しい話をわかりやすく解説してくれました。聞く側も年齢的に真剣に聞き入る内容でもありました。

2日目は、各地からの活動報告、25周年の日本縦断キャラバン、自治体のドナー助成制度などについての意見交換を行いました。25周年事業の全体とキャラバンについては、中島事務局長に詳しい解説をしていただき、各地からの質問を通して25周年、特に日本縦断キャラバンを成功させようとの意を強くしたセミナーでした。

全国協議会は25周年ですが、ゴールドジムはアメリカで50周年、日本で20周年とのことで、スタッフの皆さんは、お揃いの50周年の黒いTシャツを着用されていました。5月には格闘技スクール発表会の予定があります。

外はまだ少し寒かったのですが、会場内は熱気に包まれ、一足早く春が来ているようでした。

【お詫び】第273号(3月発行号)2面の「規定の10キロを完走早川さんと宮城さん恒例の東京マラソン」の記事に関しまして、早川美奈子様から「私の本意と異なる部分がある」とのお申し出がありました。

原稿の作成に当たり、早川様と編集長の山村詔一郎との電話・メールのやり取りの中で事実誤認がありました。そのまま掲載に至りました。

全国協議会ニュースの編集に当たっては、全ての原稿に最善の配慮を行っているところですが、今回の記事に関しまして配慮が欠けていたことをお詫びいたします。

各地のたより

鳥取 講演会と献血併行登録会 元患者さん・ドナーの話も



「骨髄バンク講演会&献血併行登録会」が3月15日(日)、鳥取県米子市のふれあいの里にて開催されました。血液センターの皆さんと骨髄バンク登録メンバー(問診医師、採血のための看護師さん、説明員のボランティア)、地元・米子市役所の皆さんは、張り切って準備をしてきました。

講演会の挨拶には、野坂康夫米子市長自らが登壇という、珍しくも嬉しいこともありました。講演会は、骨髄バンクの広報渉外職員のお話、元患者さんの講演、ドナー体験者の講演と進んでいきました。

好天の下、遊びにも行かずに講演会に来てくださった入場者の皆様は、「知らなかったことがたくさんあって驚いた」「骨髄バンクの大切さが分かった」と、興味津々に聞いておられました。登録者は16人。これから、

心からのご寄付に感謝申し上げます ●2月21日～3月20日(敬称略)

(一般)	飯島 孝枝	現金	2,340円	赤代 真也	現金	5,000円	匿名	現金	2,000円
	塩谷 圭	現金	1,000円	中山 雅雄	現金	1,000円	●志村大輔患者支援基金		
	鈴木 純子	現金	1,348円	賣野 眞弓	現金	5,000円	児玉 知之	現金	5,000円
	山村 詔一郎	現金	3,000円	匿名	現金	20,000円	●こうのとりマリーン基金		
	青山 和泉	現金	5,000円	匿名	現金	5,000円	高井 泰	現金	10,000円
	飛田 行康	現金	5,000円	●佐藤さち子患者支援基金					
				竹田 幸子	現金	15,000円			

活動資金の援助を
お願いします
銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655
郵便振替口座 00150-4-15754